

2017 秋山4題 続・わが初登頂記 A 澤

1. 9月11日(月)冠着山(かむりきやま)1252m

寡聞にして「かんちゃくさん」なんて聞いた事もなく「エッ!？」と思ったら「かんちゃく」ではなく「かむりき」と読み、有名な姨捨伝説の「姨捨山」の正式名なのだそう。教えてくれたのは坂井さん、軽井沢に別宅を設け、信州を第二の故郷として西上州や信濃の山に実に詳しく又、よく研究されており、ジャーナル 52 号に発表された短い文章ながら要領よく簡潔に纏められた「姥捨山」紀行を興味深く拝読した私は足弱なルートにも短時間で登れそうなのですぐ飛びついた。

皆さんとの次の山行をどこにしようかと栃木・塩原温泉周辺の山を下見してきたもののどうも気に入らなくて困っていたので渡りに船というわけだ。

文中で紹介された深沢七郎の「楢山節歌」は2度映画化されているが、私は高校1年(1958年)の時に木下恵介監督、田中絹代主演の方を観ており、当時の日記を引っ張り出してみたら「最後のシーンが秀逸」なんて感想が書いてあった。

登山ルート等をもう少し詳しく知りたいと思ったが、手元の分県登山ガイド「長野県の山」(山と溪谷社)には入ってなく、ネットを調べて「坊城平いこいの森」からのコースが分かり易そうなのでそちらから登ることにした。

参加者は丁度車2台分の8名、上信越道坂城ICを出て登山口へ向かう。途中迷いながらも辿り着いた林道には鉄柵ゲートがあり閉まっていたが、これは鹿よけ目的と判断し、無断で開けて進入させてもらう。くねくねと細い林道を20分程上り詰めた終点が坊城平で駐車スペースの広場の先にはキャビンが4~5棟建っていて、シーズン中は賑わうらしい。



冠着山標識



冠着山頂

風雨にさらされ色あせた「遊歩道・冠着山登山コース」の道標に従い、今にも降り出しそうな怪しげな空模様の中、ザックにレインカバーをつけて歩き出す。看板には750mとあった。高く伸びた針葉樹の樹林帯の中、見通しは悪いが木々の緑が気持ちよい。歩き始めて丁度1時間で広い頂上に着いた。冠着神社の鳥居の先には東屋があり登山者ノート

が据え付けられており私たちも記帳した。パラパラとめくっていくと殆どが地元の人達のようなようだった。幸いに雨には降られず善光寺平は見えたものの、北信五岳や北アルプスの眺望が得られなかったのは残念だったが全員登れたのでまずはヨシとしよう。この周辺は棚田で知られており水田に映る「田毎の月」は有名だ。いつか又機会があれば訪ねてみようとお湯を沸かしコーヒーを淹れながら思うのだった。

その日は戸倉上山田温泉に泊まり翌日は天気が思わしくないので予定した鍋倉山は中止とし、善光寺をお参りして帰途に就いた。

尚、下山後知ったのだが、中腹にある坊抱岩(ぼこだきいわ)はフリークライミングの岩場として知られており、地元のクライマーには人気があるらしい。

参加者：塚本、古林、岡田、萩原、西田、星野、斎藤光、赤澤(L)

2. 9月26日(火)～27日(水) 二王子岳(1420m) & 栗ヶ岳(1293m)



二王子岳山頂後方は飯豊連峰

二王子岳の名は新潟県下越地方の名山としてその山名だけは知っていたが、登る対象として意識したのは、2009年5月、西田さん企画の「佐渡交流山行」に自転車に参加し、両津の温泉ホテルで藤野さんや両斎藤さんから登ってきたばかりの二王子岳のお話を聞いた時の事だ。いつか登ってみたいと思った。が、新潟県といっても限りなく山形県に近く遠いので、ずるずると引き延ばしてきたが、漸く思い腰をあげる事にし妻を誘う。

1日目は行きがけの駄賃とばかりに、ロープウエーに乗り六日町の「八海山」に登ったが、千本檜小屋までのつもりが欲を出して地藏岳～不動岳まで足を伸ばしたせいで二王子岳の麓、新発田市に着いたのが5時過ぎ、薄暮の中で塚本さんに教えてもらった割烹旅館「庭山」をうろうろと探す羽目となり横着してナビに入れてこなかったのを後悔する。

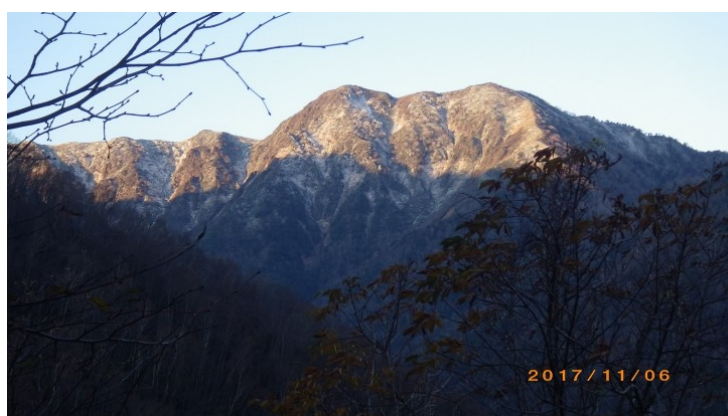
26日、4時50分起床。二王子温泉の先から杉の枯れ枝が散乱する狭い林道をくねくねと上り登山口の二王子神社に6時到着。山深く随分登ってきたかに思ったが、標高はまだ300m程で頂上までの標高差は1100m余りあり気を引き締める。用水路に沿った登山道は杉の植林帯で昭和14年植林という標識があった。「これこれ杉の子起きなさい・・・・・・・・・・」と瞬時に戦時歌謡「お山の杉の子」を思い出してしまったのは歳のせいというものか。

じきに大杉に掛けられた一合目の標識が現れ、その後この道標は山頂までずっと続き、いい目安となった。一王子神社の避難小屋を過ぎ灌木帯となると少しずつ展望も良くなり歩き出して2時間15分、五合目到着。申し分ない良い天気恵まれ、登山道も良く整備されて歩き易く、お陰様で相棒の調子も良さそうでいいペースだ。「定高山・油コボシまで1km・40分」の標識があり、ここの標高は994m、もう半分以上登った事になり、ここまで来たらもう大丈夫と登頂を確信する。ひっそりと佇む下の鴨池を左手に見て、トラロープの垂れ下る油コボシを過ぎ、振り返れば新潟平野が大きく広がり、その向こうは日本海だ。秋色に染まり始めた山肌に、山頂の赤い屋根の避難小屋も見えてきて元気がでくる。10時20分頂上到着。出発から4時間10分は上出来というもの。山頂に設置された「青春の鐘」の先には、長大な飯豊連峰がどーんと聳え、その迫力に圧倒され、1500mにも満たない山なのになんて良い山なんだろうと思う。雪のある時期もいいらしいので、是非再訪したいものと思うが、いささか遠いのが難点。大満足で下山後は海沿いに北上し、瀬波温泉で日本海の漁火を見ながら温泉で一杯としゃれこんだ。■歩行時間：上り4時間10分・下り2時間35分

翌日も好天となり川内山塊の最高峰「栗ヶ岳」を目指した。加茂市の栗ヶ岳山麓県民休養地からのコースと三条市の北五百川コースと2つあるが、三条市側から登る。こっちの方が1時間半以上短いからだが、3日連チャンはロートルの身にはさすがにきつく、妻は八合目で途中リタイヤ、一人で山頂に向かった。■歩行時間：上り3時間50分・下り2時間30分

下山後登山口近くの温泉施設「いい湯らてい」で汗を流す。眼前に八木ヶ鼻の切り立った断崖が一望出来る露天風呂が良かった。お勧めです。

3. 11月7日(月) 流石山(1813m)、大倉山(1885m)、三倉山(1888m)



裏那須大峠林道より三倉山

2年越しで登れた斎藤山の帰路、国道289号線の「道の駅しもごう」の真正面に雪を頂く長い尾根と尖がった山が目についた。売り場のオバちゃんに尋ねると三倉山だと云う。「ワーオ！恰好いいじゃないの！」私は目を瞠った。冬期、車で東北道を北上し黒磯近くになると、前方に噴煙上げる茶臼岳を盟主とする那須連峰が目飛び込んでくるが、とりわけ左手に連なる真っ白く雪を頂くなだらかな尾根

に目を奪われる。これが流石山から三倉山へと続く裏那須の稜線だ。三斗小屋温泉「煙草屋」の露天風呂からもこの稜線が目の前に広がり素晴らしい眺めとなり、いつか行かねばと思いながら、なかなか踏ん切りつかず行きそびれていたのだが、会津側から見ると尖がっていてなかなかいい。調べてみると会津側からなら日帰り出来る事が分かった。これも2008年に開通した国道289号線甲子トンネル(全長4.3km)のお陰らしい。2005年8月、大塚さん達と「阿武隈川南沢」に入渓した頃の国道289号線は甲子温泉「大黒屋」までしか通じてなく、旅館の裏の山道に「国道289」の標識が立っていて違和感あったものだが、トンネル開通で会津がグンと近くなったというわけだ。

甲子トンネルの開通に伴い開設された「道の駅しもごう」にて車中泊。5時10分、起床。車のフロントガラスは白く凍りつき、気温はマイナス3度、寒い。朝焼けの三倉山を見たかったが先を急ぎ、観音沼森林公園を過ぎ大峠林道の末端手前の駐車スペースに車を置く。

歩き易い林道を辿り、1日前の雪についた昨日のものらしい足跡を追ってブナ林の山道を上り詰める。と戊辰戦争の歴史が残る旧会津中街道の大峠(1468m)に出た。石仏が佇み、南に沼原調整池、その左手には噴煙あげる赤茶けた茶臼岳(1915m)から隠居倉と一挙に視界が開け思わず顔が綻ぶ。5年前、皆さんと三斗小屋温泉に泊まった時は、降雪の為ここから引き返した事を思い出した。あの時吹き溜まりでは10cm位の積雪で視界は殆どゼロ状態だったが、今日は底抜けに明るく、大当たりだ。佇む石仏を見て、図らずも「朝敵」と呼ばれ都を追われた傷心の若き会津藩主の目にこの景色はどう映っていたのだろうと、150年前の憂いの君主に思いを馳せたのも余裕のせいだろう。



裏那須三倉山山頂より那須連峰

流石山へと導くササ原の中の本道は凍った薄い雪の上に足跡が一つ続いていて、いよいよ待望の裏那須稜線散歩だ。右手には先日皆さんと登った小野岳の向こうに真っ白な飯豊連峰が見えるようになり、猪苗代湖の先の磐梯山は雪がないせいか奥の吾妻連峰に飲み込まれてしまいあまり目立たない。振り返れば懐かしの三斗小屋温泉の2軒の宿も確認出来るようになり、その上方隠居倉の途中で上がる白い噴気は源泉だ。対面の三本槍岳はどっしりと大きい、北へ連なる稜線上の旭岳(1835m)がピラミッド型で恰好良い。「あれもまだ未踏だなあ、いつか行かねば」と思う。けっこう急で息があがり、大峠

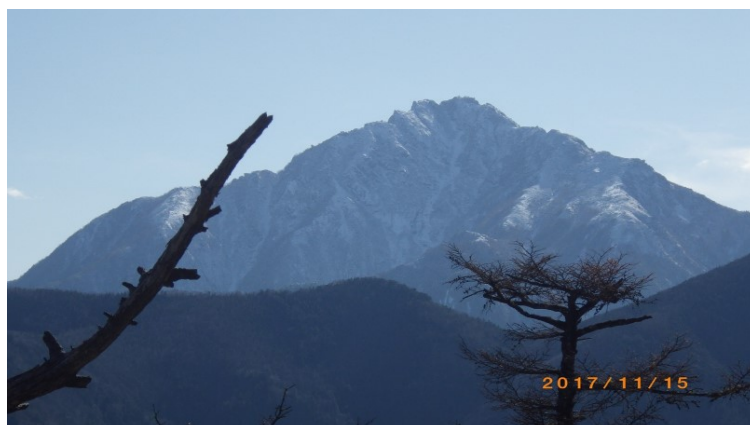
から 1 時間 20 分かけて流石山到着。灌木には霧氷がついていて朝の寒さを思いおこす。今日一番の核心部はここ流石山への登りで、あとは多少のアップダウンあっても許せる範囲内、いい山旅だぞと気分よく大倉山、三倉山へと縦走を心置きなく満喫し下山の途についた。

田部重治や原全教の愛した奥秩父の原生林も良いが、私的には断然こういう開けた尾根の方がいい。青空の下、360 度の大展望を眺めながらのおおらかな尾根歩きは期待通りの「良き山」だった。残り少ない時間をやり繰りし今度は花の時期に来てみようと再訪誓って帰路に就いた。 同行者：ナシ

■歩行時間： 上り 4 時間・下り 2 時間 50 分

追記：流石山の呼び方だが、多くのガイドブックは「ながれいしやま」と書いているが「コンサイス日本山名辞典」（三省堂）では「りゅうせきやま」となっている。面白いのは（株）ぎょうせい発行の日本の名山③「尾瀬・日光と南会津の名山」で、那須山岳救助隊長 H 氏は「りゅうせき」と書き、矢板岳友会の H 氏は「ながれいし」と書いていて真に紛らわしい。どっちが正しいのかご存知の方教えて下さい。

4. 11 月 15 日（水） 雨乞岳（2037m）



雨乞岳山頂より甲斐駒

中央高速道を諏訪方面から新宿に向かう途中、富士見高原スキー場を過ぎた右手前方甲斐駒をバックにもっこりとした大きな山が目に入るが、これが雨乞岳だ。コンサイス日本山名辞典（三省堂）によれば雨乞山とか雨乞岳というのは全国で 13 座あるが、その中で一番高いのがこの甲斐白州の雨乞岳らしい。日照り続きの中、降雨を祈って神に祈りを捧げる場所として選ばれる山だが、あまり高い山では行くまでが大変だから村里に近い低山にて祈りを捧げたに違いなく、この標高の雨乞岳は異色の存在といえる。

この山を知ったのは、知人が勤務していた山梨県の観光会社 F 社がバブルの頃にスキー場計画をたて、白馬村の元国体スキー選手 M 氏をアドバイザーにこの雨乞岳を調査した事があり、知人がその担当となり登山道もない山頂まで藪かき分けて登ったという話を聞いた時だ。余程懲りたらしく山なんかに登る奴の気が知れないと毒づいていたのでよく覚えており、どんな山だろうと長く気になっていた。北斗市在住の友人 N 氏に様子を聞くと、今は登山道が整備され簡単に登れますよと云う。N 氏は山と溪谷社

刊行の分県登山ガイド「山梨県の山」の執筆者で、手元にある 2006 年版には載ってないが、2016 年の改訂版には収録しましたという。それは朗報、早速いつもの仲間に声をかけ、いつでも出かけられるようにお天気と相談、15 日は良さそうという事でソレッと飛び出す。

登山口の平久保池には「ヴィレッジ白州」というコテージの建つ宿泊施設があり、周辺は遊歩道が整備されシーズン中は賑わうという。標高 1160m の登山口には先行車が 7 台停まっていたが、今日解禁になったばかりの狩猟者のものらしい。時折、バーンという発射音が聞こえ、間違っって撃たれるのではと思わず後ろを振り返ってみたりする。

歩き始めはカラ松林の中、コケの生えた木段が長く続く遊歩道を行き、遊歩道標識 No.3 で遊歩道と別れるとササ原となり山道らしくなる。しばらく登ると「運が良ければ水場」という小さな標識が立木に括り付けられ、右手に小さな流れが見えた。夏場は枯れてしまう事があるので、風変わりな標識にしているのだろう。左手の尾根に上がり 1 時間弱歩けば、立ち枯れのカラ松が目立つ山頂だった。日向山の白ザレの向こうに真っ白な富士山、その右手には鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳と千両役者のそろい踏み、皆さん「ワーオ！」と歓声をあげる。この方向からの甲斐駒は見慣れた中央高速道のものとは違って剣岳のようなピラミッドを形成しアルペン的で実に恰好いい。鳳凰三山も負けてはいない。なかなかのものでいい山容だ。厳冬期に山頂で朝を迎え、富士山からの日の出を迎えるのも良さそうだ。10 年若かったらこの山で年越ししただろうなと思う。お誘いした皆さんから「良かった！」「いい山だった！」と喜んでもらえ気分を良くして下山の途についた。

同行者：塚本稔、斎藤幸子、斎藤光子、赤澤

■歩行時間： 上り 2 時間 40 分 下り 1 時間 45 分

★纏め

最終コーナーを回ってあと何年歩けるだろうと意識したとたん、登り残した山が気にかかりこの所落穂ひろいに精を出している。2017 年の成果は 11 月末現在で初登の山 22 座とかなり頑張った。その明細は以下の通りである。

4 月：奥根/高檜山 1315m 迦葉山 1322m	西上州/荒船山 1423m 稲倉山 1370m
5 月：奥塩原/葛老山 1124m 塩澤山 1264m	足尾山塊/中倉山 1500m 赤倉山 1442m
7 月：スイス/アラリンホルン 4027m	
8 月：南アルプス/布引山 2584m 笹ヶ岳 2629m	
9 月：奥塩原/弥太郎山 1392m 若見山 1120m	中央線沿線/高川山 976m
信州/冠着山（姥捨山） 1252m	越後/二王子岳 1420m 粟ヶ岳 1293m
10 月：朝霧高原/毛無山 1946m	
11 月：裏那須/流石山 1822m 大倉山 1885m 三倉山 1888m	白州/雨乞岳 2037m